

## 2025(令和7)年度事業報告

日本鑄造工学会は、定款第3条(目的)のとおり「鑄造工学に係る学術及び技術の振興を図り、日本及び世界のものづくり基盤産業の発展に寄与し、社会の豊かな生活を実現することを目的とする」に合致した公益事業を展開すべく活動してきた。カーボンニュートラルへの対応など、“ものづくり”の環境が大きく変化する中、これまでの活動を振り返り、さらなる飛躍を目指して策定した第3期長期ビジョンを基にした活動を充実させるとともに、“「新しい風」を吹かせ、「新しい風に乗る」”をスローガンに活動を進めてきた。SDGsを見据えた技術革新に繋がる基礎研究の推進、技術伝承の推進とオンラインを活用した若手人材育成を戦略的に行う活動及び鑄造に携わる仲間を増やすことを狙いに、鑄造の魅力は今まで以上に多くの若い方々に伝える活動など、産業界からの要望に応えるべく、様々な活動を積極的に推進した。

公益事業としては、公1：鑄造工学に関する学術講演会、講習会等の開催事業、公2：鑄造工学に関する調査研究事業及び相談事業、公3：鑄造工学に関する表彰及び奨励事業、公4：鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業、その他、他1：会員に頒布する図書発行事業、他2：鑄造工学に関する相談事業の6つの区分にしたがって活動を行った。

2025(令和7)年度実施した事業は以下のとおりである。

### 1. 学術講演会、講習会等の開催事業(公1)

国内の鑄造業界においてはさまざまな課題がある。課題克服に向け、この技術を受け継ぎ、さらにそれらを発展させることのできる人材の育成、海外との競争力強化、経営基盤の強化、環境対策、鑄造産業自体を広く国民に理解していただく努力をどのように進めるかの検討を行ってきた。そのため研究と開発の成果を講演会や講習会を通して広く公開した。

全国講演大会は参加者の利便性を考え、会場での対面とWEBを組み合わせたハイブリッド形式で開催した。春季、秋季大会で合計258件の研究成果の発表・討論を行った。また、技術講習会、若手鑄造技術者を中心とするYFE大会を開催し、会員にとっての技術交流の場を作った。2025年度に鑄造工学会の論文賞、日下賞を受賞した方々の講演は、第185回全国講演大会で、西山圭三賞、技術賞、豊田賞を受賞した方々の講演は、第186回全国講演大会で実施した。また、「こども鑄物教室」や「工場見学会」も、従来通りに実施することができた。今年度から新たに「つながる展」と銘打ち、従来の鑄造関連商品やその技術に関する展示に加え、人材育成に目を向けた活動の紹介などを行った。大学生、大学院生及び高専生を対象とした「鑄物コンテスト」は、鑄造に関する基礎的な学習とともにデジタル技術を実際に体験できる方法で開催し、参加者全ての方案の鑄造を行い、評価した。また高校生を対象にした「理系学生応援プロジェクト」は東海支部、関西支部で開催した。

各支部主催で、地域に密着した、要求に沿ったテーマを選び、講演会、講習会を実施した。その他、関連団体との共催による講演会、講習会、研修会の開催も行った。これらのイベントも対面形式あるいはハイブリッド形式での開催となっている。

- (1) 全国講演大会を春季は東海支部(名古屋市)、秋季は九州支部(久留米市)で開催。
- (2) 講演会・技術講習会、特別講演等は、地域の協力を得て、北海道、東北、関東、北陸、東海、関西、中国四国、九州の全支部で対面形式あるいはハイブリッド形式で計25回開催。
- (3) シンポジウムをハイブリッド形式で2回開催。
- (4) YFE(Young Foundry Engineers)大会は第185回全国講演大会時に2024年度の「学生鑄物コンテスト」発表会を含み開催。
- (5) 第185回、第186回全国講演大会で、工場見学会を開催。
- (6) こども鑄物教室、鑄物体験教室を開催。
- (7) 人材育成のための鑄造カレッジは、(一社)日本鑄造協会との協力により対面形式及びハイブリッド形式で3地区で開催、(一財)素形材センターとの協力による研修講座、技術セミナーを多くのテーマについて開催。

(8) 鑄造カレッジ用オンデマンド教材の作製を継続。

## 2. 鑄造工学に関する調査研究及び相談事業(公2)

鑄造工学に関する調査研究事業に加えて、鑄造工学に関する相談事業を行った。鑄造工学に関する技術的な相談をしたい一般市民に対して機会を設け、技術的な問題解決に寄与した。

調査研究事業として、各技術分野の専門家による鑄造工学に関する研究、調査、技術交流事業を行ってきた。研究委員会では、常設の研究部会、地域のニーズに合わせた鑄物研究部会、現場鑄造技術部会、専門部会や合同研究部会による活動を対面形式あるいはハイブリッド形式での開催を行った。

研究成果は研究報告書により公開し、希望者は報告会等に参加、調査研究結果の有効活用に努めた。また広く鑄造工学に関する情報や資料の収集を行い、その研究成果を発表した。

- (1) 研究部会活動の推進とテキストの発行、技術レビュー記事などを「鑄造工学」誌に発表。
- (2) ハイブリッド形式でのシンポジウムの開催により、研究部会活動成果を公開。
- (3) 全国講演大会時にオーガナイズドセッションを開催し、最新の技術情報を報告。
- (4) 鑄造技術部会、現場鑄造技術研究会、合同研究会、鑄物研究会、その他各種研究会等多数開催。(対面形式、ハイブリッド形式を含め個別に開催方法を決めた。)

## 3. 表彰及び奨励事業(公3)

将来の鑄造産業及び日本の製造業の発展のため、鑄造に関わる研究や開発などに優れた業績を挙げた会員や一般市民に、日本鑄造工学会大賞をはじめ12種類の表彰を行った。その他、鑄造関連企業に就職した大学等の卒業生を対象に、奨励賞で表彰した。また、寄付金をもとに設定した基金から、若手研究者の研究奨励、若手活動支援、新東工業鑄造技術研究奨励の制度により研究等の奨励を行った。キャストイングズオブザイヤー賞は現地に出向いて表彰を行った。各支部においては、地域に密着した表彰及び奨励制度により、表彰、奨励を実施した。

### (1) 表彰

#### a. 本部関係

日本鑄造工学会大賞3件、優秀論文賞1件、論文賞1件、クボタ賞2件、飯高賞1件、西山圭三賞2件、功労賞8件、技術賞2件、網谷賞2件、豊田賞2件、日下賞3件、キャストイングズオブザイヤー賞2件の授与

#### b. 支部関係

**北海道支部**：支部功労賞1件、長岡金吾賞2件、野口徹賞1件、**東北支部**：大平賞1件、金子賞1件、堀江賞1件、**関東支部**：現場改善賞6件、岡田民雄賞2件、関東支部優秀学生講演賞4件、**東海支部**：支部賞11件、東海技術賞2件、岩田奨励賞3件、功労賞1件、功績賞1件、感謝状7件、**関西支部**：石野賞1件、功労賞2件、技術功労賞4件、優秀発表賞2件、支部奨学賞3件、**中国・四国支部**：功労賞1件、奨励賞2件、片島賞6件、**九州支部**：技術功労賞1件に授与。

### (2) 奨励

#### a. 本部関係

若手研究奨励金4件、若手活動支援金2件、新東工業鑄造技術研究奨励金1件に授与。

#### b. 支部関係

**関西支部**：研究開発奨励基金2件に授与

## 4. 鑄造工学に関する広報誌等発行による普及啓発事業(公4)

学会誌「鑄造工学」を毎月発刊した。最新の研究論文、技術論文をはじめ技術報告、解説、現場技術改善事例、現場改善ライト、レビューの他、シリーズ「わが社の履歴書」、「鑄造技士解体新書」を継続掲載した。鑄造要素技術概論「アルミニウム合金鑄物」を連載した。また、新たにシリーズ「知っておきたい公設史」を開始した。鑄造業界要人(研究者や技術者)のインタビュー記事、YFE委員会による各支部の「YFEだより」、「支部活動報告」も掲載した。Q&Aコ

一ナーを毎号、特集を4回掲載し、研究者、技術者及び経営者のいずれの方にも役立つ情報を拡大掲載した。また英文誌「Materials Transactions」の14学協会との共同発刊に協力するとともに、本会会員の投稿を積極的に推進した。国際化を狙いとして、掲載論文のInternational Journal of MetalCasting誌への投稿も開始した。また、中国鑄造学会の「鑄造」誌への転載も開始した。

支部においては地域の会員などとの魅力ある活動の一環で、地域に特徴をもった支部会報の発行を進め、普及を図った。

#### (1) 学会誌「鑄造工学」の定期発刊

会誌「鑄造工学」第97巻第4号より第98巻第3号までの12冊を発行した。

特集号を4月、8月、9月、12月に発行した。

第4号特集「キュボラカーボンニュートラル共創ワーキンググループの取り組み」

第8号特集「考古学・伝統鑄金からみた古代青銅器鑄造技術」

第9号特集「アルミニウム合金のリサイクル」

第12号特集「鑄造CAEの最前線」

#### (2) 全国講演大会講演概要集(研究報告258編)を5月と10月に発行した。

#### (3) 技術講習会テキストを5月、10月に発行した。

5月「鑄物をかえる次世代プロセス」

10月「DXとAIによる自動化・自動検査の活用事例」

#### (4) 支部会報発刊：関西支部通信第12号、中国四国支部会報「こしき」第48号の発刊。ニュースレターの発行、各支部ホームページにより地域に合った情報発信を行っている。

#### (5) 鑄造を広く知っていただくために、動画の製作を行い、YouTubeで発信した。

### 5. 会員等に頒布する図書発行事業(他1)

専門誌、図書発行を行う。当事業では、鑄造研究者、鑄造技術者向けに鑄造工学に関する専門誌を発行し、会員はじめ鑄造関連技術者相互の利益を図ることとしている。

主に鑄造分野の特定領域について深く掘り下げた専門性の高い内容を図書としているもので、多くの販売は望めないものであるが、鑄造分野においては必要不可欠な、将来に残すべき内容をまとめて発刊する。その分野の先進の専門家が編集委員会を組織し、データの収集と編集を行っている。

### 6. 鑄造工学に関する相談事業(他2)

「鑄造工学に関する相談事業」について具体的には、次に記す3つの事業で会員を対象にしたものである。

#### (1) 鑄造工学に関する技術相談事業

#### (2) 鑄造工学に関する論文執筆相談

#### (3) 現場技術改善事例の執筆相談

### 7. その他、本会の目的を達成するための事業

#### (1) 国内関係

他学協会((公社)日本工学会、(一社)日本鑄造協会、(一財)素形材センター、等)との協力

#### (2) 国際関係

世界鑄造技術機構理事会、The 17<sup>th</sup> Asian Foundry Congress等への参加、中国・韓国鑄造工学会との交流、海外開催学会への派遣など。(WEBあるいは現地参加)

### 8. 本会の法人管理・運営に関する事業

#### (1) 総会、理事会の開催(本部、支部)

#### (2) 各種委員会の開催など(本部、支部)

## 2025(令和7)年度本部事業報告に関する事項

### 1. 総会に関する事項(定款第13条)

#### 2025(令和7)年度定時社員総会

日時 2025(令和7)年5月24日(土) 15:15～15:45

場所 大同大学ゴビーホール, WEB配信  
(愛知県名古屋南区滝春町10番地3)

出席者 132名(うち会場にて出席48名)

(うちWEBにて出席5名)

(うち議決権行使79名)

(代議員総数197名)

審議事項 (1) 2024(令和6)年度事業報告

(2) 2024(令和6)年度収支報告

(3) 2024(令和6)年度監査報告

(4) 理事選任(補欠)の件

(5) 名誉会員及びフェロー会員推薦の件

(以上いずれも可決)

報告事項 (1) 2025(令和7)年度事業計画

(2) 2025(令和7)年度収支予算計画

(3) 2025(令和7)年度若手研究奨励金・支援金、

新東研究奨励金等授与者報告

(4) 2025(令和7)年度各賞授賞者

#### 2025(令和7)年度臨時社員総会

日時 2025(令和7)10月11日(土)15:30～15:35

場所 久留米シティプラザ, WEB配信  
(福岡県久留米市六ツ角町8-1)

出席者 154名(うち会場にて出席40名)

(うちWEBにて出席4名)

(うち議決権行使100名, うち委任状出席10名)

(代議員総数196名)

審議事項 (1) 理事選任(補欠)の件

(可決)

### 2. 表彰・奨励に関する事項(定款第4条)

1) 表彰 2025(令和7)年度各賞の受賞者は次の通り.

(敬称略)

(1) 日本鑄造工学会大賞 ・新山英輔 ・里 達雄  
・寺嶋一彦

(2) 優秀論文賞 ・土手一朗 山下和也  
桑原裕樹 甲斐信博  
貝沼重信

論文賞 ・足立 涉 澁谷有里  
岩崎祐紀 金築俊介  
永井秀明

(3) クボタ賞 ・山浦秀樹 ・黒川 豊

(4) 飯高賞 ・高森 晋

(5) 西山圭三賞 ・半谷禎彦 ・小林正和

(6) 功労賞 ・大参達也 ・鈴木邦彦  
・熊井真次 ・古里憲明

・岡田裕二 ・大竹剛志

・木挽謙治 ・尾鼻美規

(7) 技術賞 ・小林正和 富田祐良

青山俊三

・笠原芳樹 佐々木大地

重里政考

(8) 豊田賞 ・株式会社梶谷

日本坩堝株式会社

(9) 日下賞 ・株式会社クボタ  
・千葉雅則 ・猿渡直洋

・宮本諭卓

(10) 網谷賞 ・ヨシワ工業株式会社

六日市工場造型係

中子搬送サークル

・株式会社小松製作所

氷見工場生産技術部

設備課保全センタ

ドクターサークル

(11) キャスティングズ・オブ・ザ・イヤール賞

・兵庫県立工業技術センター

株式会社コイワイ

・株式会社プロテリアル

### 2) 奨励

(1) 2025(令和7)年度「新東工業鑄造技術研究奨励金」

を1名に授与した.

(2) 鑄造業関連会社等に就職する2025(令和7)年度大

学等の卒業生28名に「奨励賞」を授与した.

(3) 2025(令和7)年度「若手研究奨励金」を4名に授与し

た.

(4) 2025(令和7)年度「若手活動支援金」を2名に授与し

た.

### 3. 主務官庁指示に関する事項

下記のとおり内閣総理大臣宛てに報告書を提出した.

1) 2024(令和6)年度事業報告書及び収支決算書

令和7年6月25日

2) 2026(令和8)年度事業計画書及び収支予算書

令和8年3月24日

### 4. 登記に関する事項

1) 2025(令和7)年5月24日の社員総会により選任(補欠)

された新役員を東京法務局に申請し登記簿を変更し

た.

2) 2025(令和7)年10月11日の社員総会により選任(補欠)

された新役員を東京法務局に申請し登記簿を変更し

た.

### 5. 全国講演大会(定款第4条)

1) 第185回全国講演大会及び諸行事に関する事項

会場とWEB形式によるハイブリッド講演大会

日時: 2025(令和7)年5月23日(金)～5月26日(月)

場所: 大同大学

(愛知県名古屋南区滝春町10番地3)

参加者: 会場600名, オンライン160名

(1) 研究論文発表 130件(令和7年度論文賞及び日下

賞受賞記念講演を含む)

(2) 優秀論文賞受賞記念講演(敬称略)

a. 土手一朗

「大気環境における球状黒鉛鑄鉄の腐食特性に

及ぼすSi及びCuの影響」

(3) 論文賞受賞記念講演(敬称略)

a. 足立涉

「熱対流の影響を極力回避したホットディスク

法による熔融Al-Si合金溶湯の熱伝導率測定」

(4) 日下賞受賞記念講演(敬称略)

- a. 千葉雅則  
「製造ラインの稼働率向上を目的としたIoT技術内製化への取り組み」
- b. 猿渡直洋  
「高周波誘導加熱を利用したアルミニウム合金鋳造材の熱処理効率化」
- c. 宮本諭卓  
「球状黒鉛鋳鉄の膨張収縮挙動を考慮した鋳造CAEによる引巢予測法」
- (5) オーガナイズドセッション  
「キュボラのカーボンニュートラル」  
「特殊鋳型システムに関する研究」  
「スマートファクトリー実現に向けたソリューション技術の進化」  
「鋳造CAEによる欠陥予測精度向上と最適化」  
「現場技術改善事例」
- (6) YFE大会  
「鋳造技術の覧古考新」  
「学生鋳物コンテスト発表会」
- (7) 特別講演会  
「将来を支える人材に、どのようにしてイモノの魅力を伝え育てるか ～鋳造人材育成の課題と日本鋳造工学会が果たす役割～」  
パネリスト 函館工業高等専門学校 清水一道  
大同大学 前田安郭  
トヨタ自動車㈱ 須田智和  
アイシン高丘㈱ 山田伸弥  
司会
- (8) つながる展  
テーマ：つながる力で拓く鋳造の未来  
テーマコーナー、テーマ展示エリア、人材育成エリア、カタログ展示エリア(出展企業50社)、新しいサービス(デジタルサービス、SDGs昼食試食サービス、ゆとりブース) の企画で、参加者の交流を促す場づくりとして開催。
- (9) いもの体験教室  
小・中学生対象、学会参加者(一般)対象に加え、高校生を対象としたいもの体験教室を実施。
- (10) 工場見学会 参加者：150名  
1班 アイシン高丘株式会社 本社工場  
株式会社豊田自動織機 東知多工場  
2班 株式会社アイシン 西尾ダイカスト工場  
株式会社アーレスティ  
本社テクニカルセンター・東海工場  
3班 株式会社大同キャスティングス 名古屋工場  
株式会社エクセディ 亀山事業所  
4班 愛知機械工業株式会社 松阪工場  
株式会社大紀アルミニウム工業所  
亀山工場・テクニカルセンター  
5班 リョービ株式会社 静岡工場  
株式会社ヤマハ発動機  
コミュニケーションプラザ・本社工場
- (11) 交流会 参加者：409名  
ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋  
2) 第186回全国講演大会及び諸行事に関する事項  
会場とWEB形式によるハイブリッド講演大会  
日時：2025(令和7)年10月9日(木)～12日(日)  
場所：久留米シティプラザ

- (福岡県久留米市六ツ角町8-1)  
参加者：会場 524名、オンライン 127名
- (1) 研究論文発表 128件(令和7年度西山圭三賞, 技術賞, 豊田賞受賞記念講演を含む)
  - (2) 西山圭三賞受賞記念講演(敬称略)
    - a. 半谷禎彦  
「アルミニウム合金ダイカストを用いた発泡アルミニウムの創製研究」
    - b. 小林正和  
「放射光X線CTを用いた鋳造合金の評価技術とその応用」
  - (3) 技術賞受賞記念講演(敬称略)
    - a. 富田祐良  
「アルミニウム合金ダイカストの延性評価用パンチ破断試験の開発」
    - b. 佐々木大地  
「高精度ダイカストによる機械加工レス成形の実現」
  - (4) 豊田賞受賞記念講演(敬称略)
    - a. 益田昌人  
「酸化物抑制アルミ溶解炉の開発」
    - b. 南本高望  
「製造現場における品質改善活動へのICT技術及びIoTデータ統合・分析技術の開発・導入」
  - (5) オーガナイズドセッション  
「鋳鉄の高度化のための組織・材質・特性」  
「キュボラのカーボンニュートラル」  
「ダイカストの生産性と品質向上技術」  
「鋳造品の評価, その技術と実際」
  - (6) 特別講演講演(敬称略)  
テーマ「久留米が生んだ日本近代技術の礎 からくり儀右衛門～からくり人形の実演と共に」  
久留米からくり振興会
  - (7) つながる展(カタログ展示・PRセッション)  
出展企業・団体：60社  
PRセッション発表企業：20社
  - (8) 工場見学会 参加者：70名  
1班 トヨタ自動車九州株式会社 荻田工場  
株式会社戸畑製作所  
2班 日之出水道機器株式会社 佐賀工場  
東亜工機株式会社 谷田工場  
3班 アイシン九州株式会社  
不二ライトメタル株式会社
  - (9) 交流会 参加者：332名  
ホテルニュープラザ久留米

6. 技術講習会に関する事項(定款第4条)

- 1) 「鋳物をかえる次世代プロセス」  
会場とWEB形式によるハイブリッド講習会  
日時：2025(令和7)年5月23日(金)9:50～17:05  
場所：ウイंकあいち 9階 901  
参加者：会場 50名、オンライン 34名  
一題目及び講師一(敬称略)
- (1) プロセスインフォマティクスによる高効率パラメータ探索  
東京大学 長藤圭介
- (2) 金型+砂型ハイブリッドによるチクソキャスト

イング

(株)浅沼技研 上久保佳則

- (3) 鋳鉄製造領域の省エネ, CN活動の紹介  
(一社)日本鋳造協会 吉沢 亮
- (4) キュポラのカーボンニュートラル燃料全量転換  
マツダ(株) 田中裕一
- (5) CNとCE(サーキュラーエコノミー)に向けたリマ  
ニュファクチャリングの推進  
産業技術総合研究所 松本光崇
- (6) 鉄鋼のLCAとリサイクル  
日本製鉄(株) 磯原豊司雄
- (7) アルミニウムスクラップの溶解技術  
(株)UACJ 皆川晃広

## 2) 「DXとAIによる自動化・自動検査の活用事例」

会場とWEB形式によるハイブリッド講習会

日時: 2025(令和7)年10月10日(金)9:25~17:00

場所: 久留米シティプラザ 5階 大会議室

参加者: 会場 88名, オンライン 37名

一題目及び講師(敬称略)

- (1) 自動車を取り巻く環境変化に対応するためのDX  
推進  
トヨタ自動車(株) 大岩雅弘
- (2) 素材材製造のDXによるモノづくり革新  
マツダ(株) 正木 久
- (3) 高速CTスキャンによるアルミシリンダブロック  
のインライン検査技術の開発  
日産自動車(株) 林 憲司
- (4) 自動化構築における先進技術の取り組み  
三明機工(株) 清 雅洋
- (5) 生産計画最適化による生産性改善の取り組み  
ヨシワ工業(株) 倉本聡子
- (6) 持続可能な生産を目指して~生型鋳造ラインの  
新鋭化への挑戦~  
(株)クボタ 山田拓也
- (7) 鋳鉄シールリング加工面におけるAI判定を用い  
た自動検査方法  
(株)小松製作所 小林伸洋

## 7. 各賞受賞記念講演会に関する事項(定款第4条)

令和7年度受賞記念講演会を実施した。

- 1) 令和7年度論文賞, 日下賞受賞記念講演  
日時: 2025(令和7)年5月24日(土)~5月25日(日)  
場所: 大同大学とWEB形式によるハイブリッド
- 2) 令和7年度西山圭三賞, 技術賞, 豊田賞受賞記念講演  
日時: 2025(令和7)年10月11日(土)~12日(日)  
場所: 久留米シティプラザとWEB形式による  
ハイブリッド

## 8. シンポジウムに関する事項(定款第4条)

- 1) 生型研究部会シンポジウム「生型砂特性の把握と管  
理技術」  
会場とWEB形式によるハイブリッドシンポジウム  
日時: 2025(令和7)年11月21日(金)10:30~17:00  
場所: ウィンクあいち  
参加者: 60名
- 2) 鋳造品の評価技術研究部会シンポジウム「鋳物の実  
体評価に向けた評価技術の複合化」

会場とWEB形式によるハイブリッドシンポジウム

日時: 2026(令和8)年3月10日(火)10:00~15:55

場所: 東京都立産業技術研究センター

参加者: 35名

## 9. 出版に関する事項(定款第4条)

- 1) 定期刊行物  
会誌「鋳造工学」第97巻第4号より第98巻第3号まで  
の12冊を発行(うち4号, 8号, 9号, 12号は特集号).  
全会員に配布, 希望者に頒布を行った.
- 2) 講演大会講演概要集(会員に配布及び希望者に頒布)
  - (1) 第185回講演概要集 130編
  - (2) 第186回講演概要集 128編
- 3) 研究報告書(シンポジウム参加者, 維持会員への配  
布及び希望者に頒布)
  - (1) 研究報告133「特殊鋳型システムとその環境保全  
に関する研究」
  - (2) 研究報告134「生型砂特性の把握と管理技術II」
  - (3) 研究報告135「鋳物の実体評価に向けた評価技術  
の複合化」
- 4) 技術講習会教材(参加者, 維持会員への配布及び希  
望者に頒布)
  - (1) 「鋳物をかえる次世代プロセス」2025年5月発行,  
83頁
  - (2) 「DXとAIによる自動化・自動検査の活用事例」2025  
年10月発行, 78頁

## 10. 各種委員会に関する事項(定款第4条)

- 1) 企画委員会に関する事項
  - (1) 各種規程類の見直し・改定を進めた.
  - (2) 他の学協会との連携を推進するための提案の策  
定を行い, 鋳造カレッジ開催の支援・協力, (一財)  
素材材センターとの研修講座の共催を行った.
  - (3) 各賞表彰選考及び研究奨励金・支援金授与者の選  
考を行った.
  - (4) 理系学生応援プロジェクトは一部の開催を支援  
した.
  - (5) 支部主催の講習会を支援した.
- 2) 編集委員会に関する事項
  - (1) 鋳造工学掲載論文の中国鋳造学会の「鋳造」誌へ  
の転載を開始した. “International Journal of  
MetalCasting” 誌への転載は継続中である.
  - (2) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行を推進し  
た.
  - (3) 第97巻第4号で「キュポラカーボンニュートラル  
共創ワーキンググループの取り組み」, 第8号で「考  
古学・伝統鋳金からみた古代青銅器鋳造技術」, 第  
9号で「アルミニウム合金のリサイクル」, 第12号  
で「鋳造CAEの最前線」を特集した.
  - (4) 論文賞, 網谷賞の選考を実施した.
- 3) 国際関係委員会に関する事項
  - (1) 英文誌“Materials Transactions”共同刊行に協力し  
た. また, 本英文誌へ本会員の研究論文の掲載を  
支援した.
- 4) 研究委員会に関する事項
  - (1) 研究部会活動の推進を行った.
  - (2) 全国講演大会で9件のオーガナイズドセッション

- を開催した。
- 5) YFE委員会に関する事項
- (1) YFE大会を開催した。(第185回全国講演大会時)
  - (2) 各支部YFE委員により、「鑄造工学」誌に「YFEだより」の掲載を継続した。
  - (3) 「学生鑄造コンテスト」を企画・運営した。
  - (4) 支部ごとに地域の特徴を生かし積極的なYFE活動が展開された。
  - (5) 理系応援プロジェクト、こども鑄物教室の開催を支援した。
- 6) 財務委員会に関する事項
- (1) 財政強化施策として、経費削減活動を継続的に推進した。
  - (2) 広告のカラー掲載増加により広告掲載収入の拡大を図った。
  - (3) 会計業務の監督・指導と財政の健全運営化を進めた。
  - (4) 予算を計画的に執行するために、9月に予算実施状況のレビューを行った。
  - (5) 2025(令和7)年度決算、2026(令和8)年度予算案の策定を行った。
- 7) 人材育成委員会に関する事項

- (1) (一社)日本鑄造協会主催の「鑄造カレッジ」開催に協力した。(関東、東海、中国四国地区及び鑄鋼を開催)
  - (2) 「鑄造カレッジ」用のオンデマンド教材の作製を継続した。
  - (3) 他の学協会等と共催して、人材育成関連事業の支援を推進した。
- 8) 広報委員会に関する事項
- (1) 「鑄造工学」第97巻まで、J-STAGEへ掲載し閲覧できるようにした。  
第93巻から第97巻は、会員専用のID及びパスワードで公開。
  - (2) 「全国大会講演概要集」第185、186回をJ-STAGEに公開した。
  - (3) メーリングマガジンを活用し、学会活動の会員へ配信の充実を図った。
  - (4) 学会のホームページにマイページを設定し、会員の利便性を図った。
  - (5) 一般の方に広く鑄造を理解していただくために、鑄造に関する動画を撮影し、ホームページやYouTubeなどで配信することを検討し、動画の製作を行った。

## 11. 会員移動に関する事項

### 1) 会員別の増減

会員別	正会員	学生会員	外国会員	維持会員 (事業所数)	維持会員 (口数)	名誉会員	フェロー 会員
2025年3月末	2,377	84	24	409	521	33	5
2026年3月末	2,356	91	17	412	527	31	5
増減	-21	+7	-7	+3	+6	-2	0

### 2) 支部別の内訳 (2026(令和8)年3月末)

支 部	正会員・フェロー会員	学生会員	維持会員	同左口数
北海道	68	7	9	9
東 北	162	6	30	33
関 東	555	37	95	129
北 陸	106	0	20	23
東 海	746	19	137	182
関 西	333	10	60	84
中国・四国	264	5	41	45
九 州	127	7	18	20
海 外	17	0	2	2
合 計	2,378	91	412	527